

# スウェーデンの就学前学校の *Läroplan för förskolan 98* における音楽の意義 —生涯学習を中心に—

松 本 進乃助

(本講座大学院博士課程後期在学)

## Purpose of music in Swedish preschool in the *Läroplan för förskolan 98*: Life-long learning

Shinnosuke MATSUMOTO

### Abstract

This study examines music education in Swedish preschools. Swedish preschool education is based on the concept of life-long learning. In Sweden, the pattern for life-long learning in preschool takes the form of inculcating the desire to learn among young children. The *Läroplan för förskolan 98* (*Lpfö98*) makes the following statements with respect to music: “Creating and communicating by means of different forms of expression, such as pictures, song and music, drama, rhythm, dance and movement, and spoken and written language provide both the content and methods to be used by the preschool in promoting the development and learning of the child”; and the preschool should strive to ensure that each child “develops their creative abilities and the ability to convey impressions, thoughts, and experiences in many different forms of expression, such as play, pictures, song and music, dance, and drama.” Thus, in the *Lpfö98*, music is regarded as a sort of partner in certain activities to promote the development of young children. In Sweden, music is often used in a number of activities, especially in improving the language skills of children. Music is adopted in several education activities because it adds a pleasant dimension to such activities: from the perspective of life-long learning, music plays an important role in removing feelings of dislike for learning. In the process, young children also gain familiarity with music.

### I 研究の背景と目的

スウェーデンは国際的に男女平等が最も進んだ国であり、また女性が活躍する社会として知られている。スウェーデンの女性の社会進出は、育児休暇法や育児手当といった子育て支援制度<sup>1)</sup>が十分に機能し、女性が子育てと仕事において二者択一をせまられることのない社会が実現されたことに大きく影響を受けた。現にこうした充実した子育て支援制度によって、1999年に記録された合計特殊出生率1.5という危機的数値は、2009年には1.94にまで回復している。安定した子育てが保証されているスウェーデンでは、両親が働く間に児童が通う就学前学校（*förskola*）についても財政的支援制度や質の高い保育の提供などの取り組みにおいて、国際的に高い評価を受けている。

日本で課題として取り上げられるような幼保一元化や幼保小連携についての制度は既に実現されており、日本でもスウェーデンの就学前教育については広く研究が進められている。特に大野・七木田（2011）は、スウェーデンの義務教育と就学前学校を接続する為にそれらの間に設けられた就学前学級（*förskoleklass*）について、学校教育的なアプローチが就学前教育独自のプログラムに変容を迫る「学校化」について取り上げている。そして、大野・七木田（2011）は就学前学級（*förskoleklass*）を「生涯学習」という視点でと

らえている。これは義務教育と就学前教育を単に結びつけるのではなく、「生涯学習」というライン上に両者の筋道を作るということである。この「生涯学習」というアプローチで教育の統一化を図ろうとしたことがスウェーデンの教育の大きな特徴の一つとされている。

ところで、生涯学習が教育全体に根差しているスウェーデンでは、成人教育においても長い歴史と文化を有している。その代表的なものとして、複数の学習者が学習テーマを共有し、相互に学習を深めていく学習サークルがある。2013年にとられた統計をもとに計算すると、学習サークル<sup>2)</sup>が対象としている13歳以上スウェーデン人口の約4人に1人が、スウェーデンの成人が参加している<sup>3)</sup>。現在、スウェーデンの大きな生涯学習の場となっている学習サークルにおいて、2010年から2014年における過去5年間の全ての統計調査において最も参加者の多かった学習テーマが「即興音楽」であることがわかっている。このような統計調査にみられるようにスウェーデンの成人の生涯音楽学習に対する関心は、非常に高い。スウェーデンにおけるこうした生涯音楽学習の関心の高さ、そして生涯学習が就学前教育にまで根をおろしているということを鑑みると、音楽または音楽教育がスウェーデンの就学前教育においてどのようにとらえられているのか、非常に興味深い。

スウェーデンの就学前教育における音楽教育についての先行研究としては、横山(2009)があげられる。横山は、スウェーデンの就学前教育で用いられている教科書におけるアリス・テグネールの歌について分析し、その歴史的意義を明らかにしている。しかしながら、日本ではスウェーデンの就学前教育における音楽教育についての研究は少ない。

本稿ではスウェーデンの就学前学校における音楽教育の先行研究を概観し、スウェーデンの学校庁が定める就学前教育のためガイドラインである *Läroplan för förskolan 98* (以降、*Lpfö98*) における音楽の意義について明らかにすることを目的とする。その際、スウェーデンの就学前教育においてベースに置かれている「生涯学習」の視点から、スウェーデンの就学前教育における音楽教育の意義について考察したい。

## II スウェーデンの学校制度

本稿で取り上げる *Lpfö98* における就学前教育の対象年齢は1歳から5歳である(図1)。その後はスウェーデンの義務教育機関である基礎学校 (*grundskola*) に併設されている就学前学級に任意で1年間通うこ

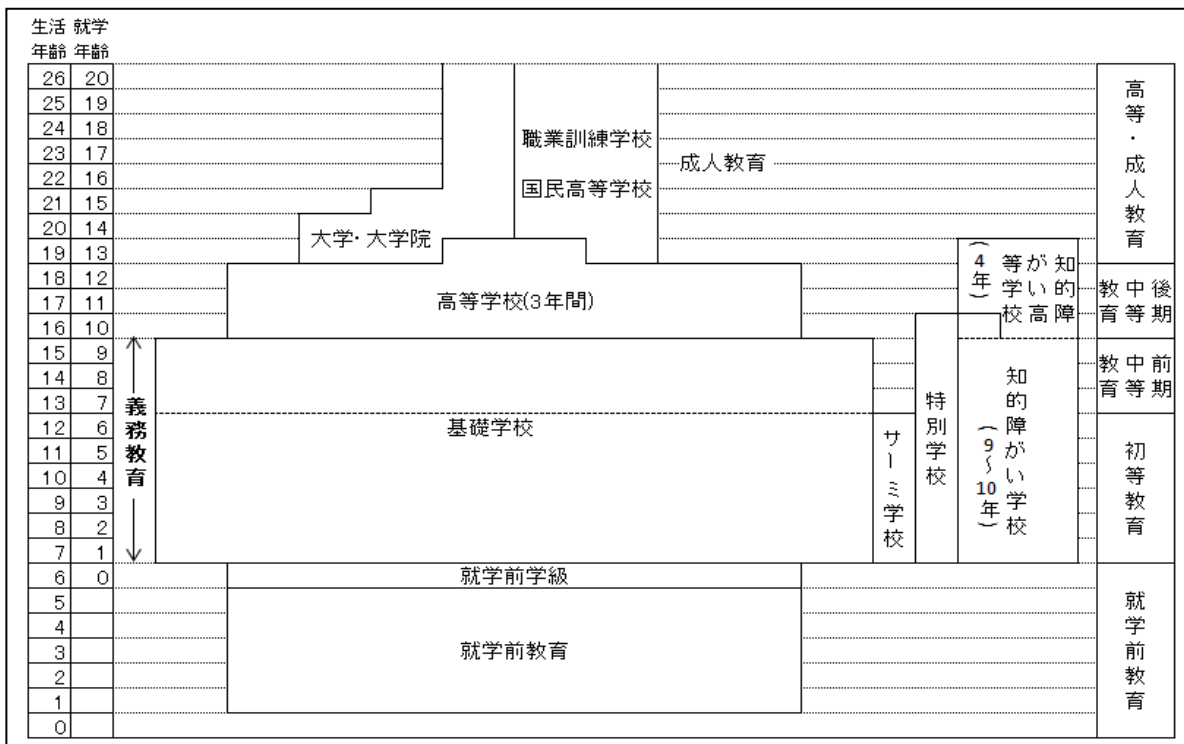


図1 スウェーデンの学校系統図(是永(2011)を参考に加筆修正した)

とができる。

スウェーデンの就学前教育の形態は就学前学校、家庭型保育所 (familjedaghem)、開放型就学前学校 (öppna förskola) の大きく 3 種類ある<sup>4)</sup>。就学前学校はスウェーデンで最も一般的な就学前教育の形態であり、仕事や学業を持つ親も持たない親も子どもを通わせることができる。また、4 歳児から 5 歳児は年間 525 時間無償で子どもを通わせることができる。家庭型保育所は、市の保育師の自宅でおこなう保育サービスで、両親の勤務時間に合わせて受付時間を変えることができる。開放型就学前学校は、親と一緒に通う就学前学校である。仕事を持たない親や日中働いていない親とその子どもを対象としており、ほとんどの開放型就学前学校は無償でおこなわれている。

スウェーデンの就学前教育におけるガイドラインは、スウェーデンの学校庁 (skolverket) が告示する Läröplan för förskolan によって規定されている。表 1 は Lpfö98 を構成する項目である。現在は 1998 年に初めて告示された Lpfö98 をもとに 2010 年に更訂されたものが適用されている。更訂については、2. (2) の事項や表の 2. (6)、2. (7) が追加されるなどの多少の加筆修正が施されたが、音楽に関する部分については 1998 年に告示されたものと同様である。

この Lpfö98 をもとにして、さらにスウェーデンの地方自治を担っているコミューン<sup>5)</sup> が Lpfö98 をもとにさらに詳細なカリキュラムを作成する。Lpfö98 に示されている内容は、スウェーデンの就学前教育をおこなう上での骨格となる目標や理念に過ぎず、具体的な教育内容や方法等についてはほとんど触れられていない。このような Lpfö98 の大綱的な性質は、地方によって異なる課題に合わせた教育の提供や各地の独創性を生かすためのものである。これはスウェーデンの義務教育機関である基礎学校においても同様である。

### Ⅲ Lpfö98における生涯学習

スウェーデンでは「生涯学習」が就学前教育における重要な理念の一つであることは、I で述べたとおりである。Lpfö98 においても、「1. 基本的価値観と学校の課題」のなかで「就学前学校は生涯学習の基礎に位置づくべきである。」と明記されている。ここで言われている「生涯学習の基礎」とは何を意味しているのだろうか。スウェーデンの情報を海外に発信しているスウェーデンの公的機関であるスウェーデン文化交流協会 (2005) は、Lpfö98 における生涯学習について次のように述べている。

「就学前保育の教育課程では、子どもには能力があり、身近な生活についてより理解を深めたいと欲しているのを前提としている。就学前保育の役割は、子どもたちのこうした欲求を知識欲にし、生涯学習の基礎を作ることである。」(スウェーデン文化交流会 2005, p. 3)

表 1 Lpfö98の構成

1. 基本的価値観と学校の課題
・基本的価値観
・他者に対する理解と思いやり
・客観性と包括性
・就学前学校の課題
2. 目標とガイドライン
(目標には就学前学校が子どもの成長において確保すべき事項が示されている)
(ガイドラインは教師が負うべき責務と組織としてすべき事項についてそれぞれ示されている)
(1) 規範と価値観
・目標
・ガイドライン
(2) 成長と学習
・目標
・ガイドライン
(3) 子ども自身の影響力
・目標
・ガイドライン
(4) 就学前学校と家庭
・ガイドライン
(5) 就学前学級、学校、放課後余暇センターの連携
・ガイドライン
(6) フォローアップ、評価と成長
・ガイドライン
(7) 就学前学校校長の責務

Skolverket (2010) をもとに筆者が訳出した

ここでは子どもたちが理解を深めたいと欲する知識欲を形成することが生涯学習の基礎ととらえられている。そしてこれは、就学前教育を出発点として、その後の義務教育、さらに将来的には成人し、社会に出た後の学習意欲につながることを目指した教育であるとも言えるだろう。

また、スウェーデン文化交流協会（2005）が「児童や青少年を対象とした学習活動のすべては生涯学習の一環であり、一括して捉えなければならない。」と述べていることを踏まえると、Lpfö98 に示された内容について音楽においても生涯学習の文脈から捉えることは可能であると言える。

#### IV Lpfö98における音楽に関する言及

ここでは、Lpfö98における音楽に関する言及の中から、音楽教育に関する指針を探りたい。Lpfö98 では音楽に関する言及は、「1. 基本的価値観と学校の課題」と「2. (2) 成長と学習」の項目のなかにみられる。

「1. 基本的価値観と学校の課題」では、や就学前学校の根底にある包括的な理念や責務について示されている。ここでは「就学前学校の課題」として、音楽について次のように触れられている。

絵、歌・音楽、演劇、リズム、ダンスや動き、そして言葉を話す、書くといった方法によって創造すること、コミュニケーションをとることは、子どもの成長と学習に励むことにおいて就学前学校によって用いられる内容及び指導法となり得る（Skolverket 2010, p. 7）

上記の文言において、音楽は創造することとコミュニケーションをとることを促す表現のひとつとしてとらえられている。絵、演劇、ダンスといった芸術的活動や動き、リズムといった身体運動及び言語と並列されているが、ここでの音楽は創造力やコミュニケーション力を培うためのツールの一つであるとみることができよう。これは音楽に内在する楽しさにその可能性を見出していることが理由のひとつとなっている。このことについては、実際にスウェーデンの就学前学校で調査をおこなった Norberg & Paremyr（2010）は、「楽しい方法において、音楽を演奏するなかで学びが促され、その学びが喜びの源となる」と述べている<sup>6)</sup>。

Holgersen（2008）は「実際、スウェーデンでは音楽は非常に重視され、特に多文化環境で言語を教える際に組み合わせられている」と述べており、スウェーデンの就学前教育において、音楽は特に言語習得との結びつきが強いようである<sup>7)</sup>。また、スウェーデンは特に移民が多いため、多文化環境になることは珍しいことではない。スウェーデン語が話せない子どものためにも、彼らを学校のコミュニティーに巻き込み、楽しませることで言語習得を促進するために音楽が最も有効なのである。

「2. (2) 成長と学習」の項目では、就学前学校における目標とガイドラインの「目標—就学前学校が子どもの成長において確保すべき事項」の一つとして、音楽について次のように触れられている。

遊びや絵、歌・音楽、ダンス・演劇のような様々な表現の中で、創造する能力と、印象や思考、体験を伝える能力を育てること（Skolverket 2010, p.10）

ここでも音楽は様々な芸術、そして遊びとともに創造力を培うためのものとしてみなされている。さらに、ここでは、「印象、思考、体験を伝える能力」とある。つまり、音楽に関して言えば、音楽を通じた活動によって感じることを、考えることを共有するための力を育てることであると考えられる。

#### V 基礎学校における音楽

スウェーデンの学校教育に対する生涯学習の考え方に基つけば、就学前教育と義務教育の接続すべきものと言えよう。そこで就学前教育における音楽教育をとらえるにあたって、その次のステージとなる義務教育で音楽教育がどのような扱われているのか、確認する必要があるだろう。基礎学校におけるカリキュラムガイドラインとして最新のものは、2011年に改定された *Läroplan för grundskolan, förskoleklassen och*

*fritidshemmet 2011*（以降、*Lgr11*）である。音楽科教育については、各科目の目標や評価について示されている *Kursplan* から確認することができる。

スウェーデンの *Lgr11* における音楽科教育の目標に次のようなものがある。

「音楽科の授業では、演奏したり、鑑賞したりすることを通して、音楽に関することに参加する可能性を広げるような知識を児童生徒に教育することを目標とすべきである。」（*Skolverket 2011, p. 100*）

この文言にあるように、基礎学校では音楽科の目標として「音楽に関することに参加<sup>8)</sup>」することが掲げられている。こうした「音楽」と「参加」に対する相互性は、2011年の改定以前から目標として掲げられており、近年のスウェーデンの基礎学校教育における音楽教育の目標として重視されている（松本2014）。

## VI まとめ

ここまでスウェーデンの就学前教育における音楽教育について、生涯学習を視点としながら、*Lpfö98*を中心に概観した。まず、重要なのは *Lpfö98* では生涯学習に基づいておこなわれることが、その前提となっており、就学前教育が長い人生における生涯学習の出発点とみなされていたことである。ここでの生涯学習とは、子どもにもっと学びたいと思わせるような欲求を芽生えさせることであった。

*Lpfö98* における音楽に触れられている部分では、音楽は、その他の芸術活動や運動とともに創造やコミュニケーションを促進させるものとしてとみなされていた。音楽は、音楽それ自体の能力を身につけると言うよりも、様々な教育活動における強力なパートナーとしての一面が強いのではないだろうか。実際、スウェーデンの就学前学校では、音楽は、言語習得において広く応用されている。また、音楽は楽しいものであるという前提において、それを学びと関わらせることで楽しさが付与され、学ぶことに対する抵抗を払拭することにもつながると捉えることができるだろう。

音楽をすることがすなわち楽しさを創出するという構図が様々な教育や活動に応用され、付随されることは音楽教育を中心とした視座からも意義深い。こうした教育を重ねることが、子どもたちに音楽をより身近なものとして認識させていくことになるだろう。

また、*Lpfö98* におけるコミュニケーションや共有という音楽の側面は、個人ではなく、複数で音楽をすることが前提にあると考えられる。そして、就学前教育後の義務教育における目標においては、音楽に対して「参加」という表現を用いていた。これら *Lpfö98* における音楽の取り扱いと *Lgr11* における音楽科の目標から見えてくるのは音楽における「他者との関わり」という共通点である。これは推測の域をでないが、複数で学ぶことが条件となっている学習サークルのような場で成人による音楽活動が盛んであることを鑑みると「他者との関わり」の中で音楽をすることが生涯音楽学習観の一つとしてみられるのかもしれない。

## 注

- 1 スウェーデン休暇法では父親母親で合わせて480日間（約16カ月）の育児休暇をとることができ、そのうち390日間は月収の8割が、その後は一日当たり180クローナ（約2600円（1クローナ=14.29円、2015年10月26日レート）支給される。また、児童手当は16歳未満の子ども一人当たり月1050クローナ（約15000円）支給される。参考Webサイトは以下のとおりである。

Huffingtonpost lifestyle Japan（ハフィントンポスト日本版）

（[http://www.huffingtonpost.jp/2015/06/02/sweden-fathers-a-third-month-paternity-leave\\_n\\_7490872.html](http://www.huffingtonpost.jp/2015/06/02/sweden-fathers-a-third-month-paternity-leave_n_7490872.html)）

2015年10月26日閲覧（2015年6月5日掲載記事）

- 2 学習サークルとは19世紀末の禁酒運動や教会運動、労働運動といった社会運動に端を発する。民間団体である公認学習協会（*Studieförbundet*）によって運営され、3人以上の学習者が集いサークルを形成し、公認学習協会に申し込むことで補助金などの支援を受けながら学習できるというスウェーデンの学

習システムである。

- 3 Statistiska centralbyrån. (2014) (スウェーデン統計局) が 2013 年におこなった統計調査によるとスウェーデンの成人人口 (18 歳～) の総人口 7627772 人に対し, 2013 年の学習サークル参加者 1747094 人であった。
- 4 就学前教育の各形態については, スウェーデン文化交流協会 (2005) を参考にした。
- 5 コミュニティとは現在, スウェーデンに 290 ある地方行政をおこなう最小単位の行政区画である。
- 6 音楽の楽しさが様々な活動につながることは Vesterlund (2003) によっても強調されている。
- 7 音楽と言語における結びつきの重要性やその方法については Vesterlund (2003) や Nivbrant (2013) などによって説かれている。
- 8 ここでの「参加 “delta i (participate in)”」とはスウェーデン語においてもグループの中に加わることを意味している。

## 引用・参考文献

- Holgersen, S. -E. (2008) “Music Education for Young Children in Scandinavia: Policy, Philosophy, or Wishful Thinking?” *Arts Education Policy Review*, Vol. 109, No. 3, pp. 47-54.
- 是永かな子 (2009) 「スウェーデンの教育の特徴—『すべての者の学校』をめざして—」村井誠 (編) 『スウェーデンを知るための 60 章』第 39 章, 明石書店, pp.256-261.
- 松本進乃助 (2014) 「スウェーデンの基礎学校における音楽科教育の動向—2011 年改訂音楽科コースプランを中心に—」『音楽教育実践ジャーナル』第 11 巻, 第 2 号, 日本音楽教育学会, pp. 178-188.
- Nivbrant, W. E. (2013) *Utveckla språket med musik: rörliga rytmer och toner att ta på*, Isaberg förlag.
- Norberg, N. & Paremyr, I. (2010) “Musik är glädje: En kvalitativ undersökning av hur förskollärare arbetar med musik som medel för lärande,” Göteborgs universitet.
- 大野歩・七木田敦 (2011) 「スウェーデンの就学前クラスに関する研究—「学校化」問題と生涯学習アプローチの観点から—」『保育学研究』第 49 巻, 第 2 号, pp. 12-25.
- Skolverket. (2010) *Läroplan för förskolan. Reviderad 2010*, Skolverket.
- Skolverket. (2011) “Musik” *Läroplan för grundskolan, förskoleklassen och fritidshemmet 2011*, Skolverket, pp. 100-110.
- Statistiska centralbyrån. (2014) *Statistisk årsbok 2014*, Statistiska centralbyrån.
- スウェーデン文化交流協会 (The Swedish Institute) (2005) 「スウェーデンの保育制度」スウェーデン文化交流協会.
- Vesterlund, M. (2003) *Musikspråka i förskolan: med musik, rytmik och rörelse*, Runa förlag.
- 横山真理 (2009) 「スウェーデンの幼児学校用音楽教科書とアリス・テグネール」『北ヨーロッパ研究』第 6 巻, pp. 61-70.

## 引用・参考 Web サイト

- Huffingtonpost lifestyle Japan (ハフィントンポスト日本版): スウェーデンがますます父親に優しい国に 育休が 3 カ月に延長される  
([http://www.huffingtonpost.jp/2015/06/02/sweden-fathers-a-third-month-paternity-leave\\_n\\_7490872.html](http://www.huffingtonpost.jp/2015/06/02/sweden-fathers-a-third-month-paternity-leave_n_7490872.html))  
2015 年 10 月 26 日閲覧 (2015 年 6 月 5 日掲載記事)